

○武川素子 笠井直美 大澤清二(大妻女大)

【目的】近年では生徒の生活技能能力、生活技能に関わる知識の低下が指摘されている。

前報では、基本的な生活技能である並縫い技能を取り上げ検討を行った。

その結果、技能の指導効果や技能習得には技能に対する正しい知識が必要であることが明らかになった。

このことをふまえ、本報では家庭科の被服領域指導内容について、指導内容がどの程度理解されているのか、被服製作経験や技能と知識・理解、被服領域内における各分野の関係などについて検討した。

【方法】埼玉県内の高校生徒579名(男子261名、女子318名)を対象として平成7年2月に質問紙調査を行った。

調査項目は小学校「家庭科」被服領域内容に関する項目、被服製作経験の有無、技能の自己評価などである。

【結果】調査の結果、以下のことが明らかになった。

- ・指導内容理解度は全体的に低く、男女差が大きい。
- ・被服製作経験と技能(自己評価)、被服製作分野の指導内容の間には各々相関関係が認められた。